

特別区（港区）

(1)面接の概要・内容

面接日：2023 年 10 月 23 日（月）

面接官（何名いたか等）：2 名（2 人とも男性。A が 40 過ぎ、B が 30 代前半の
気がする）

面接時間：13：25～13：55（30 分間）

面接を行った場所について（大体の部屋の大きさ、面接官との距離等）：割と広
めの会議室、2 メートルほど。

私：（ノックして）失礼いたします。よろしくお願いいたします。

面接官 A：お座りください。

私：失礼いたします。

面接官 A：名前をお願いいたします。

私：〇〇〇〇と申します。本日はよろしくお願いいたします。

面接官 A：住所を教えてくださいませんか。

私：〇〇です。

面接官 A：現在は一人暮らしですか。それともご実家で。

私：今は実家に住んでいます。

面接官 A：なら通える距離ですね。

私：はい。

面接官 A：まずは私からいくつか質問させてください。アルバイトは何をされて
いますか。

私：100 円ショップで働いています。

面接官 A：働いていて、こうしたらいいのになと思うところは何がありますか。

私：ただのアルバイトなのであまり口出しはしませんが、もう少し従業員の数
を増やした方がいいと思います。かなり人手が足りていないので、忙し
いことが多いからです。

面接官 A：なるほど。実際、行政の場でも人手は足りていません。でも数は増
やさないです。忙しいのは良くないですか。

私：いえ、忙しいことはいいことだと思います。しっかりと報酬をもらってい
る以上働くのは当然ですし、やりがいも感じると思っています。

面接官 A：では、本来の仕事以外にも、「〇〇さんこれやって」と頼まれた時は

どうしますか。

私：しっかりとこなします。逆に私が他の人をお願いをすることもあると思います。それぞれ得意分野もあると思いますし、持ちつ持たれつではないですが、分業し連携して仕事をするのがいいと思います。

面接官A：ありがとうございます。ひとまず私からの質問は以上です。

面接官B：では私からお聞きします。趣味は何ですか。

私：イラスト制作です。あと最近ジムに通いはじめて、筋トレも趣味になりました。

面接官B：：ジム！いいですね。公務員を目指し始めたきっかけは何ですか。

私：母から、「公務員も向いているんじゃない」と言われたことです。

面接官B：お母様は〇〇さんのどのような面を見てそうおっしゃったと思いますか。

私：真面目にコツコツ物事をこなすところでしょうか。

面接官B：どういったことからそのような印象を持ったのでしょうか。

私：学校の定期試験の勉強以外では正直あまりないのですが、先生方や周りの大人たちからの評判などでしょうか。（苦し紛れに回答しました）

面接官B：なるほど…質問を変えますね。港区を志望先として提出はされていませんが、第一～第三希望の区を教えてくださいませんか。

私：はい、〇〇区、△△区、□□区です。

面接官B：なぜその区を選んだのですか。

私：△△区は住んでいるからということもあるのですが、大学に入った頃に〇〇区に対して、幼稚な理由にはなりますが、「なんかカッコいい」と思ったからです。あと、〇〇仲通りの雰囲気が好きです。

面接官B：港区から呼ばれてどう思いましたか。

私：正直「なんで港区!？」という驚きが一番でした。人気の区というイメージだったので、まさか第二提示で声をかけていただけたとは思っていなかったからです。

面接官B：港区の施策で何か興味があるものはありますか。

私：チャレンジコミュニティ大学です。（何かメモしているので）もう一つ言ってもいいですか。

面接官B：ああ、もちろんどうぞ。

私：これはつい最近ニュースになっていたからというのはあるのですが、夏休み中の子どもたちが警察と一緒に高齢者の方の家を回り、詐欺などの警戒を呼び掛けるパトロールをしたことです。携わりたい仕事が高齢者支援関

係なので、興味を持ちました。

面接官B：ありがとうございます。私からは以上です。

面接官A：ではもう一度私から質問させていただきますね。先ほどやりたい仕事で高齢者支援のことをおっしゃっていましたが、なぜそれをやりたいのですか。

私：はい。現在、祖母と半同居中なのですが、高齢なこともあり心身ともに不安定な面がみられるようになってきました。そのケアを母と伯母が主に担っており、私が手伝うことや行政の支援も利用させてもらってはいるものの、それでもなお細部にわたって迅速に対応してほしいと思うことがあるそうです。このように、高齢者と一緒に暮らす家族や高齢者世帯の方の悩みを少しでも解消するサポートをしたいと、特別区職員を目指し始めたころから考えているからです。

面接官A：ありがとうございます。区の仕事は高齢者支援だけではないですが、他にどんな課や業務があるかご存じですか。

私：はい、えー戸籍など住民の情報を扱う課や総務課、選挙管理、子育て支援、今言った高齢者などの福祉課、土木などといったところでしょうか…。

面接官A：ありがとうございます。少し質問を変えますね。今、100万円もらったらどうしますか。

私：そうですね…半分はお世話になっている人や家族・友人と食事をする分に使って、もう半分は貯金ですかね。

面接官A：なるほど。皆さんそう言いますよ（笑）。ではすぐに使わないと没収になる場合はどうですか。

私：それなら貯金分を自分のために使います。

面接官A：何に使いますか。

私：洋服が好きなので、服を買いたいです。

面接官A：ありがとうございます。もう少しお聞きしたいところですが、そろそろ時間ですので面接は以上となります。どうですか、港区のことを好きになれそうですか。

私：はい、それはもちろん。正直なところ、港区については東京タワーがあり、高級住宅街があり、弟の通う中学校があるといった程度の認識しかありませんでした。ですが、街歩きをしてみて、特に白金高輪は地元の〇〇に似た雰囲気がある街だなと思い親近感を持たせてくれました。今では、港区で働きたいと思っています。本日はお忙しい中面接をしていただき、ありがとうございました。

面接官 A：はい、ではお帰りいただいて結構ですよ。

私：ありがとうございました。（ドアの前で）失礼いたします。

(2)面接を終えての印象

全体として自分のことについて聞かれることが多かったと思います。区の施策について割と対策をしていったので拍子抜けした感じですが、答えられない質問は無かったので一安心でした。上記の面接官 Bの方がほとんどの時間真顔だったので、少し「いい回答」ができていないのではと面接の間心配になりましたが、良い結果を迎えられたので良かったと思っています。

第一志望の千代田区の面接の時は、①興味ある施策を述べた際に墓穴を掘ったこと、②3回ほど「勉強不足ですみません」と言うしかなかったことがあったので見事に落ちましたが、港区の時はそれがなかったので、しっかりと答えることができれば落とされることは少ないのかなと思います。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

区面接の直前に家族がコロナに罹り私自身がホテル暮らしになるやらないやらでバタバタしており、オンラインの模擬面接を活用できなかったため、大学の就職支援センターでやってもらった模擬面接のことになってしまいますが、練習の時に聞かれたことと大差ないと思います。なんならそこまで突っ込んだ質問がなかったのでありがたかったです。

ただ、やはり雰囲気などは違いますし、模擬面接の時は一対一ですが本番は多対一なので、気後れしないように堂々とすることは意識しました。

(4)他受験生の印象

私と同じ時間に呼ばれていたのが他に1人だけだったので、正直あまり書くことが無いです。おとなしそうな男性でしたが、控室で待っている時も私と同じように対策したことをまとめてあるであろうプリントを眺めていました。たまたま目が合った瞬間があったのでお互いに会釈して「頑張りましょう」とは話しましたが、それ以外は会話も特にしませんでした。

余談となりますが、面接が終わって戻ってきた時、次の時間帯の2人が待っていて、おそらく2人とも前髪を上げていました。私もきちんと上げて固めていっ